

復興ありがとうホストタウン取組一覧

参考資料

No	都道府県	団体名	相手国・地域	No	都道府県	団体名	相手国・地域
1	岩手県	宮古市	シンガポール	12	宮城県	気仙沼市	インドネシア
2		大船渡市	米国	13		名取市	カナダ
3		花巻市	米国、オーストリア	14		岩沼市	南アフリカ
4		久慈市	リトアニア	15		東松島市	デンマーク
5		陸前高田市	シンガポール	16		亘里町	イスラエル
6		釜石市	オーストラリア	17		加美町	チリ
7		雫石町	ドイツ	18		福島県	喜多方市
8		山田町	オランダ	19	南相馬市		ジブチ、台湾、米国、韓国
9		野田村	台湾	20	本宮市		英国
10	宮城県	仙台市	イタリア	21	北塩原村		台湾
11		石巻市	チュニジア	22	飯舘村		ラオス

1.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県宮古市（シンガポール）

- 宮古運動公園陸上競技場は震災で全壊したが、2017年7月12日に再建。シンガポール赤十字社からの寄付金により、競技用器具が備えられたことが宮古運動公園の復活に大きく貢献した。
- 同じくシンガポールを相手国としている陸前高田市と連携を図り、シンガポールの小中学生などを招待し陸上交流を行うとともに、たろう観光ホテルで実施している「学ぶ防災」に参加し、宮古市の防災の取組をシンガポールに発信することにより、シンガポールとの交流促進を目指す。
- 2019年3月、「いわてスポーツフェスティバル」において、陸前高田市とともに、ホストタウン取組み状況やシンガポールの文化等を紹介。



宮古運動公園陸上競技場

寄付金により整備した備品

いわてスポーツフェスティバルでの
シンガポール文化紹介

2.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県大船渡市（米国）

- 全米陸連を訪問し事後交流に向け当市で希望する交流について提案、高校生2名が英語でプレゼンなどを行なった。また、ロサンゼルス郡消防救助隊にも訪問し、震災当時の捜索救助活動に対する感謝を改めて伝えた。（2018年8月27日～9月1日）
- 米国の若手バンドによるジャズコンサートを開催し米国文化に触れる機会を設けるとともに、千葉県成田市、印西市で行われた米国陸上選手等による陸上クリニックに参加し、トップアスリートと交流を行った。（2018年6月、10月、12月、2019年2月）



市長から全米陸連へ記念品の贈呈



高校生による英語でのプレゼン



ロサンゼルス郡消防本部での協議



ジャズコンサートの開催



陸上クリニックへの参加（成田市）



陸上クリニックへの参加（印西市）

3.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県花巻市（米国・オーストリア）

- オーストリア大使館参事官サウペ氏による講演会実施（2018年2月27日）
- 震災時に復興支援活動にあられたラズナー氏による野球教室開催（2018年3月4日）
- イーハートーブ花巻ハーフマラソン大会に米国ホットスプリングス市民ランナーを招待（2018年4月22日）
- ホットスプリングス高校生、市民訪問団を沿岸被災地へ案内する復興視察ツアーを実施（2018年6月8日/
高校生：陸前高田市、9月5日/市民訪問団：大船渡市）
- 花巻市出身オリンピック 高橋 英輝 選手による記念講演実施（2018.12.2）
- オーストリアオリンピック委員会事務局長ペーター・メンネル氏と花巻市長との会談（2019年1月17日）
- 「いわてスポーツフェスティバル」において、ホストタウン取組み状況、米国・奥国の文化や姉妹都市交流等を紹介（2019.3.16～17）

サウペ氏による講演



ラズナー氏を招いた野球教室



復興視察ツアー（ホットスプリングス市高校生）



イーハートーブ花巻ハーフマラソン大会



ペーター・メンネル氏と花巻市長との会談



いわてスポーツフェスティバルでの紹介ブース



4.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県久慈市（リトアニア）

- 復興「ありがとう」ホストタウン以前よりリトアニア共和国クライペダ市と姉妹都市として30年交流している。
- 東日本大震災時には多額の支援と、復興と鎮魂を願う「千羽鶴キャンペーン」がクライペダ市で実施された。
- 2018年10月に国内で合宿していた柔道代表選手らを迎え、子供らと交流した。
- 姉妹都市30周年記念事業としてクライペダ市を市長らが訪問。併せてクライペダ市で開催された「オリンピックデー」に出展し、リトアニアオリンピック委員会会長と面会した。



千羽鶴キャンペーン



柔道選手と子供達の交流



歓迎レセプション



リトアニアオリンピック委員会会長



オリンピックデー参加者と

5.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県陸前高田市（シンガポール）

- 2018年7月、シンガポール共和国を訪問し、陸前高田市戸羽太市長がWorld cities summitで講演。
- 2018年7月、MCCY(シンガポール文化社会青年省)とのホストタウン交流に係る覚書を締結。
- シンガポールJCC(ジャパングリエイティブセンター)において、陸前高田市を紹介するPRイベントを開催。
- 2018年11月、シンガポール国立図書館長が来訪しシンガポール関連書籍、震災アーカイブについて視察。



6.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県釜石市（オーストラリア）

- 釜石キッズラグビー国際交流プログラム（2018年9月14日～17日）に、オーストラリアの子供達を招き、釜石小学生の国際交流意識の向上を図った。
- 元オーストラリア代表のスコット・ファーディー選手を釜石に招いた際の、市民、子供達との交流を収録したプロモーションビデオを活用しながら、オーストラリアラグビー関係者に対して、復興支援の感謝を伝えるとともに、釜石市のPRと東京2020大会時の当市への招致、交流をオーストラリアを訪問し呼びかけた。（2018年11月4日～11日）



釜石キッズラグビー国際交流プログラム
集合写真



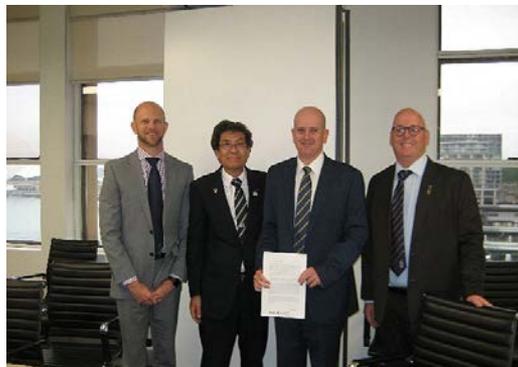
国際理解教室の様子



太鼓の体験



ラグビー協会との協議



オリンピック委員会訪問



タムワース市長、市議会訪問

7.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県雫石町（ドイツ）

- 震災時に義援金等の支援を受けたドイツへ感謝の気持ちを伝えるとともに、支援金を渡した沿岸部の山田町の復興状況を発信するため、雫石中学校、雫石高校計6名が2018年5月からポスター制作学習を実施。
- ドイツから来日した高校生と雫石町の中高生が山田町を訪問した際の中高生同士の交流風景や、ドイツ人パラリンピック金メダリストのハインリッヒ・ポポフ選手へのインタビュー等の内容が盛り込まれた。
- 生徒たちは2019年2月にドイツを訪問し、これまで交流を行ってきたバード・ヴィンプヘン市やネッカーズルム市の市長や生徒、ドイツオリンピックスポーツ連盟の関係者等にポスターを贈呈した。
- この際、ネッカーズルム市在住のドイツ競泳代表選手・コーチに大会後に雫石町に招待したい意向を伝えた。大会時には、町をあげてドイツ選手団の応援を行い、大会終了後は選手・コーチと町民との交流を実施予定。



ポスター制作を担当した中高生



ドイツ高校生との被災地視察(2018年5月)



ハインリッヒ・ポポフ選手への
インタビュー(2018年10月)



アルバートシュヴァイツァーギムナジウム校表敬訪問・
ドイツ競泳代表コーチとの面会(2019年2月)



ネッカーズルム市長表敬訪問
(2019年2月)



ドイツオリンピックスポーツ連盟での
プレゼンテーション(2019年2月)

8.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県山田町（オランダ）

- 山田町とオランダは、江戸時代にオランダ船が山田湾に漂着した縁で現在も二国間の交流が続いており、オランダ船が漂着した湾内にある島は、通称「オランダ島」と呼ばれている。
- 2014年5月24日、東日本大震災をきっかけとして結成されたオランダ関係企業・団体をメンバーとする「一般社団法人オランダ島」から、放課後児童クラブ「オランダ島ハウス」の寄贈を受けたことをきっかけに「復興ありがとうホストタウン」に登録。
- 東京大会の調達基準を満たした食材を含む地元食材を使い、オランダ料理を調理する料理教室を開催した交流活動を実施するとともに、その成果物を佐賀県と連携しオランダ大使館で披露。
- このオランダ料理のレシピについては、山田町の飲食事業者がイベント等で提供していく予定。2020年大会時にはオランダ人選手と住民との交流を行い、オランダ料理で歓迎するほか、応援ツアーを実施する予定。



オランダ島



大使館での山田町の説明



オランダ大使館で提供した料理



オランダ島ハウス



料理教室の様



オランダ大使館関係者との交流

9.復興ありがとうホストタウンの取組 岩手県野田村（台湾）

- 東日本大震災時に支援を受けた台湾を相手とした復興ありがとうホストタウンに登録した野田村は、台湾陸上チームの事前合宿型ホストタウンとなっている静岡市と連携した取組を実施。
- 両自治体の中学生が台湾を訪問し台湾陸上代表選手を取材し、ポスターを作成。2018年12月には、ホストタウン交流の取組を台湾にて発表するなど、台湾との交流を深めている。



村長が静岡市で合宿中の台湾陸上代表チームを激励



野田村と静岡市の中学生が台湾陸上チームの合宿場所に取材に訪問



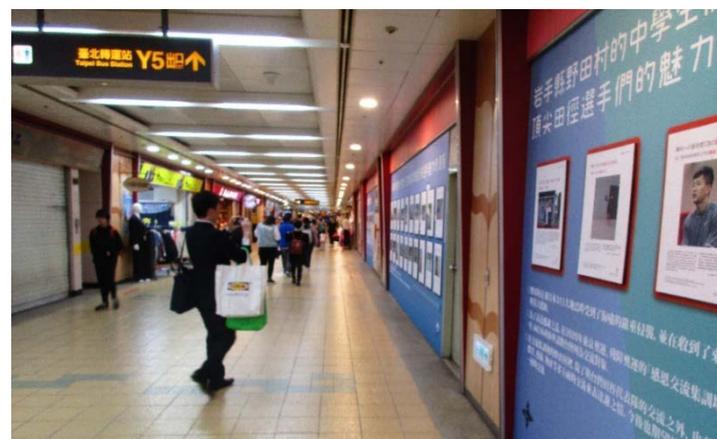
中学生が作成した台湾を紹介するポスターを三陸鉄道車内で掲示



静岡市に合宿に来た選手と野田中学校の生徒が交流



台北市内で野田村、静岡市、台湾陸上関係者等と交流イベント実施



台北駅地下街で中学生が作成したポスター展示

10.復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県仙台市（イタリア）

- 2018年8月、イタリアで開催されたU-15野球国際大会に市内中学生で構成する選抜チームを派遣。イタリア中部地震の被災地アマトリーチェを訪問し、選手と現地の児童との被災地同士の交流を実施。あわせて、アマトリーチェ市長を訪問し、選手らから被災地の住民へあてた応援ビデオメッセージを贈った。
- 2018年9月、イタリアパラリンピック委員会が視察に来仙。併せて震災遺構である荒浜小学校を訪問。仙台市の被害状況やその後の復興の歩みについて、市職員から説明した。
- 2019年5月、シッティングバレーボール女子イタリア代表の強化合宿を受入れ。併せて荒浜小学校、3.11メモリアル交流館を訪問。来仙した代表選手の夫（テノール歌手）による復興チャリティコンサートも実施した。

アマトリーチェの慰霊碑を訪問



中学生が現地の児童に
仙台の復興の歩みなどを説明



NPCの視察団が荒浜小学校を訪問



NPCの視察団にビデオでも説明



選手がメモリアル交流館を訪問



復興支援ソング『花は咲く』でテノール歌手と
常盤木学園高校生徒がコラボ



11.復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県石巻市（チュニジア）

- 2018年6月、市内小学校にて、チュニジアとのホストタウンについて理解を深める授業を実施。チュニジアとの交流史などについての講義を受けた後、グループワークを実施し、感じたことを発表してもらった。
- 2018年9月、チュニジアから剣道チームを招いて交流事業を実施。1週間の滞在の中で、日本刀に関する講習会を開催するなどして相互理解を深めた。
- 2018年12月、チュニジアオリンピック委員会の視察団を受入れ。市内のスポーツ視察を視察するとともに、市内スポーツ団体との意見交換や被災地視察も実施した。

チュニジアオリンピック委員会を訪問



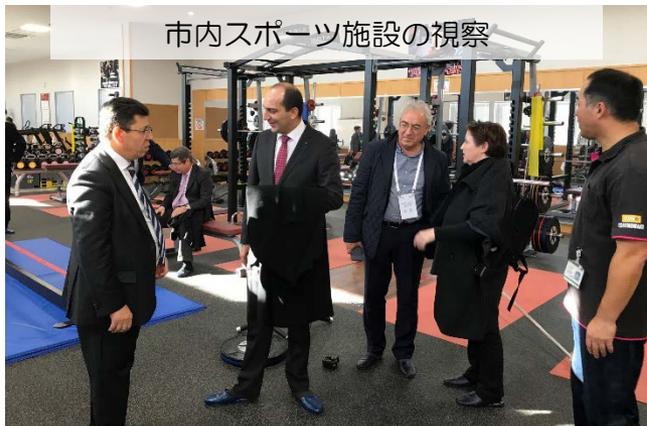
市内小学校での授業の様子



来日した剣道チームへの日本刀講習会



市内スポーツ施設の視察



「がんばろう！石巻」看板を視察



チュニジアを再訪して具体的協議



12.復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県気仙沼市（インドネシア）

- 市長及び市職員3名がインドネシア共和国を訪問（2018年10月13日～15日）し、震災時に頂いた復興支援への感謝を伝え、支援により完成した図書館の状況を報告するとともに、選手等との交流を要請。あわせて、ジャカルタ市内で日本政府観光局が開催している「Japan Travel Fair 2018」の視察を行った。
- 前年に続き、気仙沼みなとまつり（2019年8月3日～4日開催）に駐日インドネシア大使を招待し、市民と交流していただく予定。
- インドネシアの小学生と気仙沼の小学生によるテレビ会議等の交流を計画している。

平成30年3月落成の気仙沼図書館
（児童図書エリア「ユドヨノ友好こども館」）



インドネシア青年スポーツ省表敬訪問



駐日インドネシア大使と気仙沼みなとまつりで交流



インドネシアオリンピック委員会・パラリンピック委員会等を訪問



13.復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県名取市（カナダ）

- 東日本大震災で甚大な被害を受けた閑上地区のまちびらき（2019年5月26日）に際し、カナダ政府などの支援で整備された朝市拠点施設「メイプル館」に、PRブースを設置。カナダの紹介や復興支援の内容、復興ありがとうホストタウンであること等のPRを行った。
- 同会場では、メープルシロップをかけたパンケーキの試食とメープルティの試飲を提供。まちびらき及び復興状況の視察に訪れた在日カナダ大使館をはじめとするカナダ関係者や多くの市民等で賑わった。

カナダの支援で整備された「メイプル館」

ホストタウン等を紹介するパネルやうちわを作成してPRブースに展示



名取市はカナダの復興ありがとうホストタウンです

「復興ありがとうホストタウン」とは

「復興ありがとうホストタウン」とは、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の自治体が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、震災発生直後から支援してくれた国や地域、その選手団や関係者に対し、感謝の意を表すとともに、住民との交流を行うものです。

名取市は平成30年6月にカナダを相手国とする「復興ありがとうホストタウン」として登録されました！

名取市マスコットキャラクター「カーンくん」

今後の取組み

支援いただいたカナダ関係者や、オリンピック選手団を招待し、次のような市民の皆さんとの文化・スポーツ交流を推進し、これまでの支援に対する感謝の意を伝える取組みを進めていきます。

- カナダを知る・ふれあう市民交流会の開催
- 被災地の復興状況や支援により整備された施設などの周知
- 感謝の集いの開催
- 再開するサイクルスポーツセンターを利用したスポーツ交流
- 市民応援団による応援

名取市サイクルスポーツセンターと差別化計画(案)

名取市教育委員会 教育部 復興ありがとうホストタウン推進室
 "Arigato" Host Town for Supporting Reconstruction Promotion Office

市長がうちわを持って来場者にPR

カナダ関係者との和やかなひと時



14.復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県岩沼市（南アフリカ）

- 2019年3月11日に岩沼市民会館にて開催された東日本大震災追悼式典に、在京大使館の参事官および一等書記官を招待。あわせて、震災ガレキが土台として活用されている千年希望の丘も視察いただいた。
- 市役所本庁舎内の市民ホールに南アフリカ共和国に関する展示物を掲示し、市民のホストタウン事業への理解を促進。
- 今後、「いわぬま市民夏まつり」「東北・みやぎ復興マラソン」でのジャンベ演奏や、ラグビーワールドカップでの南アフリカ共和国の応援等を通じて交流を深めていく予定である。

東日本大震災追悼式典での献花



千年希望の丘交流センターにて



交流内容を紹介するポスター

Thank you South Africa

Iwanuma city
Republic of South Africa

東京2020オリンピック・パラリンピックで南アフリカ共和国を応援します

復興「ありがとう」ホストタウン 宮城県岩沼市

岩沼市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被害を受けた。震災により、岩沼市を中心に多大な被害を受けました。南アフリカ共和国の復興支援活動が、被災地内外の協力があって実現し、復興活動が進展してまいりました。

1.ホストタウン登録の背景とこれまでの取組

- 2011年3月19日に、南アフリカの義勇団(NGO/Rescue South Africa (RSA))が、岩沼の被災地を視察し、復興支援を実施しました。
- 同月24日に、義勇団の一部が、岩沼市となった当時の市長会館(写真-A)を訪れ、メッセージ入りサッカーボールが市長に贈呈されました。
- 2011年10月には、(公財)フロンティア・サポート・センター(旧フロンティア・サポート・センター)主催の「みんなで復興！プロジェクト」の中で、南アフリカ共和国出身の支援者が岩沼の被災地を視察し、中継生と一緒に「南アフリカの復興支援活動」など、子ども心を癒していたきました。また、2012年2月、3月にも、市の社長の義勇団で復興支援を行いました。
- 2012年3月1日には、毎日特別金曜大祝(当時)に岩沼市職員の送別式(写真-C)にて、感謝のメッセージをいただきました。
- 2014年11月、義勇団の代表2名が岩沼を訪れ、市長と面談し、記念の函(Commemorating the relationship between Republic of South Africa and Iwanuma City)が贈呈されました。
- 2016年2月1日に、南アフリカ共和国を相手国とした「復興「ありがとう」ホストタウン」に決定したことを発表し、岩沼市長が毎日南アフリカ共和国大使館(写真-D)を訪ねました。

2.今年度の取組

- ラグビーワールドカップ2019日本大会で南アフリカチームを応援する「復興「ありがとう」ラグビーフェスティバル」を開催しました。
- 南アフリカ共和国の復興支援活動(中学校、いわぬま市民夏まつり、東北・みやぎ復興マラソン2019)で応援します。
- 南アフリカの映画(インビクタス「負けざる者たち」)の上映や南アフリカ料理を学校給食で提供するなど、南アフリカの発信をします。

3.今後の展望

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で南アフリカチームを応援する「復興「ありがとう」ラグビーフェスティバル」を開催します。
- 南アフリカチームの応援活動の発信をします。
- 南アフリカチームで被災地を応援し、復興支援活動をしていただける選手を募集しています。 Email: fukuyoku@iwawuma.miyagi.jp

市民ホールでのホストタウン展示



15. 復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県東松島市（デンマーク）

- 2019年2月、デンマーク王国の中学生を受け入れ、市内中学校訪問、ホームステイなど学生間交流。
- 甚大な津波被害のあった野蒜地区にあるメモリアルパーク、震災復興伝承館を訪問し、献花。
- 主要産業である海苔の生産作業所を見学するとともに、養殖技術について勉強。
- 駐日デンマーク大使から「ホストタウンが日本の地域とデンマーク王国との交流を活発にしている」とコメント。



16.復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県亘理町（イスラエル）

- NPO主催の「イスラエル建国70周年式典 in WATARI」（2018年10月5日）にて駐日イスラエル大使および大使館関係者を町に迎え、町民やスポーツ関係者との交流を実施。
- イスラエルの人気シェフが亘理町食生活改善推進員協議会を訪れ、料理教室を開催。イスラエル料理のパスタや亘理町の郷土料理「はらこめし」を共同で作し、互いに調理法を伝授し合って交流した。
- 町内および近隣の柔道スポーツ少年団を対象に、「駐日イスラエル大使杯記念交流 少年柔道大会」を開催。
- 駐日イスラエル大使館の一等書記官が町内小中学校を直接訪れ、イスラエルの歴史・文化を学習する特別授業を開催。給食ではイスラエル料理が提供された。



17. 復興ありがとうホストタウンの取組 宮城県加美町（チリ）

- 1960年のチリ沖地震以来、チリと交流のあった南三陸町に設置されていた同国寄贈のモアイ像が東日本大震災によって流されてしまったことを受け、イースター島よりモアイ像が寄贈された。一方、被災時に、避難民の受け入れや職員の派遣などで、同町を支援した加美町は、かねてより力を入れていたパラカヌー等について、チリ選手の受け入れを決定。両町が協力して、チリ国民に対し、復興を成し遂げつつある姿を発信するとともに、支援に対する感謝の念を示すため、加美町は「復興ありがとうホストタウン」に登録。
- 加美町は、早速2019年からチリのパラリンピック選手団の受け入れを実施。選手は南三陸町にも訪問し、南三陸町民の方々とも交流を実施する予定（大会時にも交流予定）。



パラカヌー選手と子どもの交流



ゆるきゃら「かみ〜ご」(ホストタウンマーク入り)



締結式レセプションでのチリ料理



右) 加美町でのパラリンピック選手団事前合宿に係る覚書締結式。南三陸町長も出席 (2019年2月)

左) ホストタウンサミットに出席するチリNPC事務局長とパラカヌー選手団 (2019年2月)

18.復興ありがとうホストタウンの取組 福島県喜多方市（米国）

- 2018年7月 姉妹都市ウィルソンビル市の高校生が市内の高校生とボート体験交流を行う。
- 2018年8月 米国ボート協会を訪問し、CEO、会長に対しホストタウン交流への協力を要請。
- 2019年1月 現在もサンディエゴ・パドレスでアドバイザーを務める野茂英雄氏を招いた講演会と野球教室を開催。日本と米国で活躍する野茂氏から、200名の小中学生が直接指導を受ける。
- 2019年3月 MLBからプレシーズンゲームの招待を受け、市内の中学生40名が観戦。アスレックスの監督らから歓迎を受ける。

地元高校生とボート乗艇体験



米国ボート協会を訪問



MLBプレシーズンゲームの観戦



ボート体験交流



野茂英雄氏を招いた野球教室の開催



MLBアスレックスの監督と記念撮影



19.復興ありがとうホストタウンの取組 福島県南相馬市（ジブチ）

- 福島県南相馬市は、震災時に支援をいただいたジブチ共和国の「復興『ありがとう』ホストタウン」として、2018年2月に市内の空手講師2名をジブチへ派遣し、子どもたちの空手教室を開催した。
- 2018年7月に、ジブチ共和国の子ども達など10人を「相馬野馬追（そうまのまおい）」へ招待。子ども達は、アホメド・アライト・アリ大使が選抜し、ジブチオリンピック委員会のカナノ副会長らが引率を務めた。訪問団は、「相馬野馬追」を観覧したほか、甲冑着付けや南相馬市のロボット産業の体験等も行い、南相馬市の歴史や文化への理解を深めた。
- プロサッカーチーム「福島ユナイテッド」のコーチ陣によるサッカーのワークショップも行われ、ジブチと南相馬の子ども達は、言葉の壁を越えてサッカー交流を楽しんだ。
- 東京大会では競技終了後に選手たちを南相馬市に招待し、市民との交流を行う予定。



300人の生徒や保護者が参加した屋外練習会



南相馬市のロボット産業の体験



甲冑着付け体験で気分はサムライ！



南相馬の子ども達とのサッカー交流

20.復興ありがとうホストタウンの取組 福島県本宮市（英国）

- 2018年6月、英国上院議員クリストファー・ホームズ氏（元パラリンピック金メダリストでロンドンパラリンピック総合ディレクター）を招へいし、中学校での講演や市長との懇談、市内視察を実施。
- 2018年7月、本宮市の公式訪問団が渡英。英国オリンピック委員会とパラリンピック委員会への訪問、英国の子どもたちとの交流を実施。
- 2018年11月、英国オリンピック委員会CEOビル・スweeney氏を招へいし、市内行事での挨拶や中学生との交流、英国庭園など市内視察を実施。



中学校でスピーチをするホームズ上院議員
（本宮市内）



英国庭園を視察するスweeney CEO
（本宮市内）



スweeney CEOを中学生が出迎え
（本宮市内）



英国オリンピック委員会訪問
（ロンドン市内）



英国パラリンピック委員会訪問
（ロンドン市内）



英国の子どもたちとの交流
（ロンドン市内）

21.復興ありがとうホストタウンの取組 福島県北塩原村（台湾）

- 中学生台湾派遣交流事業の充実を図るため、台湾の教育関係者を北塩原村に招き、村内小中学校の授業参観や給食体験、自然体験、日本文化を紹介し、震災後の台湾からの支援に対する謝意を伝えた。台湾の先生から「北塩原村の自然は素晴らしく、台湾の子どもたちにも是非体験してもらいたい」というコメントがあった。（2018年1月31日～2月3日）
- 震災後に北塩原村で慈善公演などを行った舞踊団への村長による訪問や（2018年7月14日）や中華民国卓球協会とバドミントン協会へ訪問（2018年8月3日）をし、謝意を伝えるとともに、来村を呼び掛けた。
- 台湾舞踏家協会とメディア関係者を招き、当時の支援に対する謝意を伝えるとともに、当時、村に避難していた浜通り地方の方々も招き、舞踏家協会と8年ぶりの交流を行った。また、北塩原村や福島県の現状について、メディアを通して台湾に発信された。（2019年4月29日～5月3日）

村内小中学校の授業参観



自然体験



抹茶体験



中華民国卓球協会を訪問



台湾舞踏家協会の来村



台湾舞踏家協会と浜通り地方の方々の交流



22.復興ありがとうホストタウンの取組 福島県飯舘村（ラオス）

- 飯舘村の子どもたちの募金や村のふるさと納税で、ラオス・ドンニヤイ村に中学校の建設を支援していたところ、完成目前で東日本大震災が発生。ドンニヤイ村民が飯舘村民のために祈りをささげ、中学校から激励のメッセージ等が届けられた。
- こうした交流をもとに、飯舘村は、ラオスの「復興ありがとうホストタウン」となり、選手に村で練習してもらい、復興している姿を世界に発信したいとの思いで、ラオスのパラ水泳代表選手の合宿の受入を計画。
- 飯舘中学校の生徒たちは、ラオスの方々に飯舘村を知ってもらう動画やパンフレットや選手を応援するオリジナルTシャツの製作、ラオス料理と飯舘村の料理をコラボした創作料理の考案などを行い、ラオスの選手を迎える準備を行っている。



飯舘村の支援で建てられたドンニヤイ村の中学校



ラオススポーツ大臣の視察

創作料理の完成♪
薫るきんぴらパン&スパイシーポテトパン



中学生が考案した創作料理



ホストタウンサミットで発表する
飯舘中学校の生徒



NHK Worldでの取組紹介



修学旅行での大臣表敬



ドンニヤイ村の中学生の訪問